

令和7年第8回12月定例会一般質問

質問日	質問順	議席番号	質問者	要綱 ページ
12月1日	1	5	山 口 文 章	1
	2	20	齋 藤 仁 一	2
	3	19	佐 原 正 秀	3
	4	1	渡 部 忠 寛	5
12月2日	5	13	後 藤 誠 司	7
	6	7	遠 藤 吉 正	8
	7	9	小 島 雄 一	9
	8	12	渡 部 一 樹	10
12月3日	9	3	坂 内 まゆみ	10
	10	2	田 中 修 身	12
	11	6	十二村 秀 孝	13
	12	11	菊 地 とも子	15
12月4日	13	4	高 畑 孝 一	15
	14	10	矢 吹 哲 哉	15
	15	17	小 林 時 夫	16
	16	18	渡 部 勇 一	17

一般質問要綱

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
1	5	山口文章	<p>1 本市の有害鳥獣対策（熊）について 全国的に熊による被害が増加しています。全国での人身被害は10月末で200名を超える過去最悪のペースです。死者数も10月末で13名と過去最多になっています。本市内では、これまで人身被害で4名（市内在住者2名、市外2名）であります。市民の方々は、熊出没の不安で安心に生活できていないのが現状です。今後も冬眠前、冬眠しない熊などの新たな被害が発生するかもしれません。 また、熊による市内各イベントも中止や変更など経済活動もマイナスになっています。しかしながら、ほぼ毎日のように熊の対応に追われている有害鳥獣対策室の職員の方々や、危険と隣り合わせの鳥獣被害対策実施隊の隊員の方々には、大変頭が下がる思いであります。 以上のことから、熊の対策について国・県でも現在検討しておりますが、本市の現状と今後の対策について伺います。</p> <p>(1) 直近の熊の捕獲実績について伺います。また、熊わな捕獲数と錯誤捕獲数それぞれについて伺います。</p> <p>(2) 熊の出没件数と目撃件数について伺います。また過去3年間の推移について伺います。</p> <p>(3) 熊に遭わない対策と遭遇した場合の対応の周知について伺います。</p> <p>(4) 本市が保有している熊わな数と市街地への出没時の対応について伺います。また、11月16日に実施した市内での緊急銃猟について伺います。</p> <p>(5) 熊捕獲時（わな等錯誤捕獲）の対応について伺います。</p> <p>(6) 熊出没による本市各イベントの中止または内容の変更の件数と経済影響について伺います。</p> <p>(7) 市内通学路の熊対策について伺います。</p> <p>(8) 捕獲した熊の放射能濃度調査を実施しているか伺います。</p> <p>(9) 今後の本市の熊対策について伺います。</p> <p>(10) この課題は本市だけでなく広域圏で取り組まなければならないと考えますが、市の考えについて伺います。</p> <p>2 ごみ集積の課題について 本市では、令和6年4月からクリーンきたかた推進員（旧：廃棄物減量等推進員及び不法投棄等防止推進員）が始まっています。令和6年度の推進員の活動報告書からの分析結果でごみ集積についての問題点が大きく3点に絞られていました。</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>「分別がされていない」、「指定日時に出されていない」、「指定ごみ袋で出されていない」と上記の3点が主な問題であります。これらについて重点的に対応することで問題が大きく改善されると考えます。市の対応について伺います。</p> <p>(1) 分別がされていないということは、本市で配布している「家庭ごみの分け方・出し方」に情報を詰め込みすぎとれます。瓶の分別も表記が多く重要な部分が分かりにくい状況です。分かりやすく改訂が必要と考えますが、今後の市の対応について伺います。</p> <p>(2) 指定日時では、時間帯として6時～8時30分と指定されていますが地域の実情に応じて柔軟に対応できないか、市の対応について伺います。</p> <p>(3) 指定ごみ袋は、燃やせるごみ専用袋、燃やせないごみ専用袋、プラスチック製容器包装専用袋とありますが、透明または半透明の市販のポリ袋で可能な場合があります。まだまだ周知が弱いと考えますが、今後の市の対応について伺います。</p> <p>(4) 市民の方々に分かりやすい周知方法でこれまで以上の改善につながると思います。総合計画の循環型社会・自然環境における指標のうち、一人一日当たりのごみ排出量及びリサイクル率の過去3年間の達成はどのようになっているのか、伺います。</p> <p>この情報を見る形にすれば市民がもっと関心を持つことができると思います。考え方を伺います</p>
2	20	齋藤仁一	<p>1 中期財政計画と喜多方市財政健全化プランについて</p> <p>(1) 中期財政計画が示されたが、喜多方市財政健全化プラン（以下「プラン」という。）の視点が反映されている中期財政計画の歳入及び歳出の箇所はどこか伺いたい。</p> <p>(2) プランの歳入の確保の視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で3億円の見込みとなるのか伺いたい。</p> <p>(3) プランの総人件費の抑制の視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で1億円の削減を見込んでいるのか伺いたい。</p> <p>(4) プランの公共施設の在り方の見直しの視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で2億5千万円の削減を見込んでいるのか伺いたい。</p> <p>(5) プランの事業全般の見直しの視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で3億円の削減を見込んでいるのか伺いたい。</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>(6) プランの各種補助金等の見直しの視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で3千万円の削減を見込んでいるのか伺いたい。</p> <p>(7) プランの内部管理経費の徹底した削減の視点、中期財政計画では具体的に3年間でどの項目で2千万円の削減を見込んでいるのか伺いたい。</p> <p>2 こども家庭センターについて</p> <p>(1) こども家庭センターは、母子保健機能関係と児童福祉機能関係に分かれているが、人員体制及び専門職の配置についてどのようにになっているのか伺いたい。</p> <p>(2) 母子保健機能関係と児童福祉機能関係における具体的な活動内容と対象者数はどのようにになっているのか伺いたい。</p> <p>(3) これらの活動を通して、喜多方市の課題をどう捉えているのか。また、課題解決に向けた取組をどう進める考えか伺いたい。</p> <p>3 山都・高郷中学校の統合と育みの丘構想（案）について</p> <p>(1) 山都・高郷中学校の統合場所はいつ決定するのか。また、その進捗状況はどうなっているのか伺いたい。</p> <p>(2) 育みの丘構想（案）の統合中学校としての構想案以外の、大学農学部等のサテライト校及びコワーキングスペースとしての活用案については賛同するものの、どの部署が責任的に関わっているのか伺いたい。また、具体的な検討に入っているのか、どう進められる考えなのか伺いたい。</p>
3	19	佐原正秀	<p>1 高齢化と少子化対策について</p> <p>過疎地域については、昭和45年以来4次にわたり議員立法として制定され過疎対策立法の下で各種の対策が講じられ、産業振興や交通基盤などに一定の成果が見られましたが、依然として過疎地域では、人口減少と厳しい高齢化に直面し、地域によっては存続が危ぶまれている集落の増加、地域医療の弱体化、買い物困難者、訪問介護体制、子供の貧困化など、過疎地域の抱える課題は一層深刻さを増しており、引き続き過疎地域の自立促進のための取組が必要であり重要となります。今後、過疎地域においては、産業の進行や移住・定住の促進と集落の維持・活性化等、それぞれの地域の実情を踏まえた取組を行うための真剣な討議が必要になります。今後における過疎地域の対応と対策についてお尋ねいたします。</p> <p>(1) 高齢化時代に向けた対策について</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>(2) 買い物困難者対策について (3) 訪問介護の体制について (4) 認知症対策について (5) 子供の貧困対策について</p> <p>2 農業のこれからの課題と対策について</p> <p>日本の高度成長期を支えてきた農業生産者は年々高齢化し、現時点では65歳以上の従事者が68%を超え、農林水産省では2030年には平均年齢も71.7歳と高齢化が極限まで進行すると見通しております。しかしながらその反面、広大な農地を使い大規模に生産を行う農業法人は急増を続けており、今後もこの傾向は変わらず、耕作放棄地を活用してさらに増加するものと思われます。しかし、未曾有の課題が多く農業生産者に降りかかってくるものと考えられます。特に、水稻の高温耐性品種の導入、中山間地の効率化、就農者の人材育成などが挙げられるが、日本の農業のポテンシャルも世論で騒がれているほど悲観するものではありません。統計手法にもよるが、事業収入5,000万円以上の農業経営体は全体の1～2%であり、その階層の経営体の生産シェアは全体の約30%程度です。農業生産の3分の1をわずか1～2%の農業生産者が担っているものであります。本年は米価高騰もありましたが、来年は米の過剰が想定されるため、6%の減反政策が行われる見通しで、目まぐるしく変わる農業政策に戸惑いもありますが、この階層の農業生産者が増えることで、生産量が大きく伸びていくことが想定されるところであり、本市における今後の農業支援策についてお尋ねいたします。</p> <p>(1) 水稻の高温耐性品種の導入について (2) 中山間地の効率化対策について (3) 就農者の確保と人材育成について</p> <p>3 子供主体の子供・子育て支援について</p> <p>わが国の待機児童対策や少子化対策は子供を数で扱い、子供の目線で子供の環境を考える、子供の立場からの思考が欠落しているかのように感じられます。今や、子供を一人の人格として扱う時代です。例えば、保育所の騒音などの問題で「子供の声を聞いてどうなる」、「子供たちに考えることができるのか」と言う反論も予想されます。しかし、海外のドイツのみならずフランスでも、就学前から子供の参画を進めております。子供の意見を求めるという流れは、子供の権利条約が制定され世界で批准されてから、欧州を中心に標準的なものとなつ</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>てきているようあります。ユニセフの「子どもにやさしいまちづくり」のプログラムでは、1996年のハビタットⅡから始まったプログラムで、子供の参画を筆頭に子供の権利の面から、自治体施策に子供の声を反映して、子供本位のまちづくりを推進するプログラムあります。ユニセフではそのためのアセスメントツールも提供しており、自ら評価して足らない部分を改善していくP D C A（計画、実行、評価、改善）のステップで、アクションリサーチとして、子供も参画できることが可能なツールを提供されております。このようなことから子供主体の子育て、教育支援など、本市における施策と実行についてお尋ねいたします。</p> <p>(1) 子供に願う学びと教育課程の裁量拡大について (2) 保育のこれからを考える対策について (3) 生き物、水の循環の教育対策について</p>
4	1	渡部忠寛	<p>1 豊かな財源を築くためのふるさと納税について</p> <p>本市は令和7年9月に策定した喜多方市財政健全化プランに基づき、令和9年度までの3か年度において集中的な財政健全化の取組を進め、持続可能な財政運営に向けた財政構造の構築を図ることとした。</p> <p>市財政健全化プランでは、歳入の確保、総人件費の抑制、公共施設の在り方の見直し、事業全般の見直し、各種補助金等の見直し、及び内部管理経費のより徹底した削減に取り組んでいく。また、喜多方市総合計画きたかた活力推進プランに基づく諸施策を着実に推進するとともに、新たな行政需要や不測の事態へ機動的に対応できるように市の預金ともいえる財政調整基金残高の回復を目指すこととした。</p> <p>プラン進行中は市民が等しく受益するサービスやインフラ整備は維持することとしているものの、貴重な収入源である国からの地方交付税(特に普通交付税)が減少している中で本市予算の圧縮を行えば、時代の変化に応じた市民ニーズに応え難くなる懸念は拭えない。</p> <p>そこで自治体において有力な収入源となり得る「ふるさと納税の寄附額増」に力点を置き、歳入を増やすとともに、基金積立予定額を超える余剰金があった場合は、物価高に対応するように子育て教育支援や高齢者支援をはじめ、商工農業振興等への各産業への支援、移住定住や観光振興といった定住人口増や関係交流人口増の支援に予算を回していくべきである。</p>

令和 7 年第 8 回 12 月定例会

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			<p>今後、喜多方市は力強く舵をきり、1日でも早く財政難という負の連鎖から脱却し良好な循環へ転換するよう、一層強力に仕掛けていかなくてはならない。</p> <p>以上の観点及び過日の先進地視察を経た知見を踏まえ、9点伺う。</p> <p>(1) 令和元年度から令和6年度までのふるさと納税寄附額及び寄附件数について伺う。</p> <p>(2) 年間計画の策定について伺う。</p> <p>(3) 返礼品数と返礼品の選定方法について伺う。</p> <p>(4) 令和6年度における定期便、季節便、及び文化庁未来の100年フード認定3点セットの返礼割合について伺う。</p> <p>(5) 令和6年度におけるリピーターとワンストップ特例制度利用者の割合及び相関について伺う。</p> <p>(6) 令和6年度から現在までのふるさと納税クラウドファンディングの実績について伺う。</p> <p>(7) 寄附額及び寄附件数増を目的としたそれぞれのPR戦略について伺う。</p> <p>(8) 担当職員数と職員の視察及び研修の有無について伺う。</p> <p>(9) コンサルタント、中間事業者の有無について伺う。</p> <p>2 医療・介護職員の安定確保について</p> <p>この度、市内にある複数の入院・入所施設及び通所施設との面会等を行い、多くのご意見とご要望をいただいた。また、福島県老人福祉施設協議会（会津方部）において県職員や他施設の方々と意見交換を行い、昨今の切実な現状を共有した。</p> <p>集約して述べると、喜多方市を含めた会津地方の施設は長引く原油価格の高騰、食品や資材の高騰により診療報酬や介護報酬が決まっている中で事業所の経営は疲弊・逼迫している。内部留保金を相当額切り崩して運営している事業所もあり、あと何年持つか分からぬいという悲痛な声も聽かれた。</p> <p>人材の確保も深刻である。命と健康を守る医療・介護を担う職員（医師、看護師、介護職員、その他のコメディカルスタッフ）は最低限な人数で運営しており、施設によっては慢性的な職員欠員で施設基準を満たせず、やむなくベッド数を減少、利用定員数の縮小を余儀なくされている。</p> <p>全国では病院の経営破綻や人材確保の困難さなど様々な問題が指摘されており、本市においても非常に危惧される問題である。</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>報酬に関しては、国に対して地方の様々な団体から要望が出ている。現総理においては定期的な法改正を待たずに報酬の引上げを謳っており、大幅な報酬増を期待したい。</p> <p>そのような背景の中、財源が厳しい本市ができるることは、人材確保の支援である。今は何とか職員を維持している施設においても、ここ数年で深刻な人手不足になる可能性が高い。のために現行の人材確保や定着に関する補助制度を維持するのは必須であるが、さらに実施すべきことは、様々な関係団体と協同し、雇用を維持・増加する手段を強力に講じるとともに、小中高生といった若いうちからの教育を行うなど永続的に人材の確保を図る必要がある。</p> <p>以上の観点から7点伺う。</p> <p>(1) 喜多方市の医療・介護人材の現状をどのように分析し、将来をどう予測しているか、伺う。</p> <p>(2) 市内の医療・介護分野それぞれの有効求人倍率と全体との比較について伺う。</p> <p>(3) ハローワークや関連機関と協同した人材確保対策について伺う。</p> <p>(4) 人材紹介会社を通じて入職した場合の手数料の助成ができないか、伺う。</p> <p>(5) 県は介護人材育成確保対策において、小中高校生への啓発活動や担い手確保など様々な対策を講じている。市はどのように行動しているか、伺う。</p> <p>(6) 喜多方准看護高等専修学校の定員及び卒業生数と学生の市内就職人数について伺う。(令和4～6年度)</p> <p>(7) 先日提出された喜多方医師会からの要望を受け、どのように応えていくのか、市の考えについて伺う。</p>
5	13	後藤誠司	<p>1 有害鳥獣（熊）被害及び対策について</p> <p>今年は全国的に熊の出没や被害が多発しております。本市でも人的被害が発生しており、市民の安全安心確保の観点から対策強化も必要であり、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 今年度のツキノワグマ、イノシシ、ニホンザルの旧市町村ごとの出没数と捕獲数を伺います。</p> <p>(2) 今年度のツキノワグマの人的被害を伺います。</p> <p>(3) 人的被害防止の主な対策を伺います。</p> <p>(4) 市街地にいる熊等の危険鳥獣を駆除するため、改正鳥獣保護</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>管理法が9月に施行され、可能となった緊急銃猟について ア 10月1日を目途に実施体制を構築することでしたが、進捗はいかがか、伺います。 イ 研修会への参加はあったのか、伺います。 ウ 市鳥獣被害対策実施隊との協議結果について伺います。 エ 緊急銃猟が想定されるような案件はあったのかどうか、伺います。 オ 課題について伺います。</p> <p>(5) 今年度の旧市町村ごとの未利用果樹等伐採支援事業補助金の交付件数と交付金額を伺います。</p> <p>(6) 来年度の電気柵購入支援事業補助金の事前募集状況について伺います。</p> <p>2 特定健診及びがん検診について 生活習慣病の予防に資する特定健診及びがんの早期発見のための各種がん検診は、市民の健康を守ることや医療費抑制のために大変重要であります。 そこで以下の点について伺います。</p> <p>(1) 令和4年度から令和6年度までの特定健診の受診人数及び受診率と各種がん検診の受診人数及び受診率を伺います。</p> <p>(2) 特定健診及び各種がん検診の受診率向上への取組について伺います。</p> <p>(3) 昨年度から電子受診券になりましたが、効果と課題について伺います。</p> <p>(4) 今年度より集団健診が予約制となりましたが、効果と課題について伺います。</p>
6	7	遠藤吉正	<p>1 観光振興施策について 観光は総合産業であり、人口減少による地域経済の縮小化が懸念される本市にとっても、これから産業振興施策は行政だけでなく、さらなる民間団体との連携とともに新たなチャレンジの取組が必要とこれまでも提言してまいりました。来年開催されるふくしまデステイネーションキャンペーン(ふくしまDC)を一過性で終わらせない取組や、国内外に通じる「喜多方ラーメン」を核とした産業施策にさらに取り組むべきとの考えから伺います。</p> <p>(1) ふくしまDCについて ア 今年開催したプレDCの成果と課題について伺います。ま</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>た、市民への周知への課題と今後の取組について伺います。</p> <p>イ DC期間中、郡山～喜多方間の直通列車の運行について伺います。</p> <p>(2) 喜多方ラーメンについて</p> <p>ア 9月に喜多方ラーメン元祖の老舗店が閉店しましたが、見解を伺います。</p> <p>イ 令和6年4月に喜多方ラーメン課が設置されましたが、設置後の取組により経済効果をどのように分析しているのか、伺います。</p> <p>ウ 総務省統計局は「家計調査」で都道府県庁所在別に「ラーメン」の年間支出額（外食）をランキングで公表していますが、本市も独自に調査・公表すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>エ 喜多方ラーメンチャレンジショッププロジェクトの事業内容及び進捗状況について伺います。</p> <p>オ 喜多方ラーメン大使についての現状について伺います。</p> <p>2 財政健全化について</p> <p>現在令和7年度～9年度まで財政健全化に向けて自主財源である「ふるさと納税」について新たな取組を図るべきと考えます。制度的には納税ですが、地域資源を活用した魅力的な返礼品（商品開発）の開発を推進し、地場産品の販路拡大やブランド化を図り、地域産業・経済の好循環への視点を強化すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>(1) ふるさと納税について</p> <p>ア 令和7年度の現状と、今後3年後に年間10億円の目標を立て戦略を図るべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>イ 現在、企画部門で所管していますが、産業部門への移行について伺います。</p> <p>ウ ふるさと納税額を増やすためには中間業者の在り方が重要と考えます。そこで業者の現状について伺います。また、今後の業者の在り方と喜多方観光物産協会との連携について伺います。</p>
7	9	小島雄一	<p>1 家庭教育支援・子育て支援について</p> <p>私たちは、宮崎県に行政視察を行った。宮崎県の合計特殊出生率は沖縄、福井に次ぐ全国3位である。国の人ロ動態統計によれば令和6年度全国平均は1.15、福島県も1.15だが、宮崎県は1.43で0.28ポイントの差がある。温暖な気候など住みやすい環境などの外的要因もあると思うが、県の家庭教育支援による影響が大きいのではないかと</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>思い、その状況の説明を受けてきた。そこで伺う。</p> <p>(1) 宮崎県における家庭教育支援条例による教育や子育て支援をどのように思うか、伺う。</p> <p>(2) 本市に取り入れができる内容があると思うが、伺う。</p>
			<p>2 五ヶ瀬町方式について</p> <p>宮崎県五ヶ瀬町は熊本県境の山間部に位置する人口 3,000 人の町である。少子高齢化により人口減少が進行するが学校は地域振興の中心であるのでできるだけ統合しないという方針の下、1つの中学校と4つの小学校が存続している。地域の人・もの・ことを活用して地域で総合的に一貫性、発展性のある教育を行い、五ヶ瀬でしか学べない特色ある教育を進める「五ヶ瀬教育グランドビジョン」の下、統廃合よりも授業のシステムを変革することに力を入れたのである。そこで伺う。</p> <p>(1) 五ヶ瀬教育グランドビジョンをどのように思うか、伺う。</p> <p>(2) 地域と連携した体験活動のシステムをどう思うか、伺う。</p> <p>(3) デジタル化と一線を画した体験活動重視をどう思うか、伺う。</p> <p>(4) 学校におけるデジタル化の再検討チームをつくり研究すべきでないか、伺う。</p>
			<p>3 農業政策について</p> <p>米価の高騰により転作の作物について補助金を入れても大きな差が発生している。このままでは各農家において来年の作付に対する方向性を定めることができないでいる。そこで伺う。</p> <p>(1) 経営所得安定対策の来期の在り方をどうするのか、伺う。</p> <p>(2) 酒造好適米の生産者の売り渡し価格の現状を伺う。</p> <p>(3) 本年度の水田作付の現状を伺う。</p>
8	12	渡部一樹	※ 通告を取り下げました。
9	3	坂内まゆみ	<p>1 インフルエンザ予防接種について</p> <p>(1) 全国的にインフルエンザが流行しており、会津においても11月に入ってから、医療機関を受診する患者数が急激に増えています。子供や妊婦、高齢者は重症化しやすいと言われています。本市では、令和6年度まで、65歳以上の高齢者をはじめ、中学3年生までの子供と、妊婦に対するインフルエンザ予防接種の助成をしてきました。ところが、令和7年度においては、中学3年生までの子供と、妊婦に対するインフルエンザ予防接種の助成が廃止となり、</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>市民から戸惑いの声を聞いております。改めて、令和7年度におけるインフルエンザ予防接種の助成対象を伺います。</p> <p>(2) 物価高騰の昨今、インフルエンザワクチンの料金も年々高くなっています。予防接種の全額自己負担は、子育て世帯にとって大変負担が大きく、経済的な理由から予防接種を受けるかどうか迷う保護者も少なくないと考えます。集団生活を送る子供たちにとっては、予防接種を受けずに感染し、施設内においてインフルエンザが蔓延する恐れもあると感じます。会津管内のほとんどの町村では、本年度も引き続きインフルエンザ予防接種の助成は継続している中、子育て支援をしている喜多方市がなぜ中学3年生までの子供と、妊婦に対するインフルエンザ予防接種の助成を廃止したのか、また段階的にはできなかったのか、理由を伺います。</p> <p>(3) 医療機関に聞き取りしたところ、本年度から全額自己負担になったことを知らない保護者が多いことが分かりました。広報紙やホームページ等で周知していても、見ていない市民が多いのが現状です。保育園等や学校を通して周知するなど、より丁寧な周知が必要だったと考えますが、どのように周知したのか、伺います。</p> <p>(4) インフルエンザ予防接種の助成がなくなり、全額自己負担になったことから、接種する子供や妊婦の数の把握が重要かと思います。例年と比べて、どのような変化があったのか、伺います。</p> <p>(5) 経済的な理由で、子供の場合は本来2回受けるワクチンを1回に、または接種しないと選択する家庭もあるのではないかと思います。予防接種をしていない子供が増えることで、これまで以上に施設内での蔓延が心配されます。インフルエンザの蔓延により学級閉鎖になるなど、様々な影響が出てくるのではないかと考えますが、市の見解を伺います。</p>
			<p>2 喜多方市の既存事業の見直しについて</p> <p>(1) 財政状況が芳しくない昨今において、既存事業の見直しは必須であります。令和7年11月14日の全員協議会において、喜多方市山都町温泉保養センターいのゆの老朽化に伴う休館について説明がありました。その上で、施設点検調査業務委託料として5,346,000円の費用が必要との説明がありましたが、点検調査をし、今後修繕が必要となった場合、修繕をするという意味なのか、予算規模によって点検調査はしたけれども修繕をしないという意味なのか疑問が残っております。喜多方市においては、現在、温泉</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>施設が4つあり、それぞれの施設が老朽化してきています。今後、全てを維持していくには、莫大な財源が必要であり、どこかの時点で今後どのように対応していくかを、早急に決めていかなければならぬ時期と考えます。いいでのゆについては、点検調査後の修繕はどのように考えているのか、また、喜多方市の保有する温泉施設の統合などについて、どのように計画しているのか、市の考えを伺います。</p> <p>(2) 三ノ倉高原花畠事業の入込数は70,000人が適正と聞いていましたが、令和7年度は適正とする半分にも満たない31,000人程度の入込数だと聞いています。また、昨今は熊の出没も多く、一部区域への立ち入りの制限、またはライトアップを取りやめた観光地などがあると聞いています。三ノ倉高原の場合は、夜間や早朝に写真撮影に訪れる人もいると聞いています。もし熊の被害に遭ってしまった場合、誰がどのように責任を取るのか考えてしまいます。こうした状況を踏まえ、以下の点について市の見解を伺います。</p> <p>ア 三ノ倉高原花畠事業の入込数が減少した理由と、この入込数でも事業は継続していくのか、伺います。</p> <p>イ 三ノ倉高原花畠事業の熊対策について伺います。</p>
10	2	田中修身	<p>1 高市早苗首相の「非核三原則」の見直しについて 「非核三原則」は、核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」とした、唯一の戦争被爆国の中としての基本方針「国是」です。1967年12月に当時の佐藤栄作首相によって表明されて以来、歴代の首相は堅持してきました。</p> <p>高市早苗首相は11月11日の衆議院予算委員会で、非核三原則の文言を堅持するかをめぐり、「私から申し上げる段階ではない」と述べ、堅持するか否かの明言を避けたのに続き、国家安全保障戦略など安保関連3文書の改定に伴い、非核三原則の見直しを検討していることが分かりました。</p> <p>「非核平和のまち宣言都市」の市長として、高市早苗首相に対して、「非核三原則」の堅持を強く求めるべきです。市長の見解を伺います。</p> <p>2 山都中学校・高郷中学校統合整備構想（山都・高郷地区育みの丘構想）について (1) 「旧耶麻農業高校の校舎・施設を利用して、総合的な学びの施設を設立し、『農の心』の継承・発展をめざす」とする、山都中学校・</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>高郷中学校統合整備構想（山都・高郷地区育みの丘構想）は、破綻していると考えます。山都・高郷地区育みの丘構想は撤回すべきです。</p> <p>合意書を取り交わした後、保護者の中から「統合中学校として旧耶麻農業高校舎ではなく山都中学校の活用」を強く求める署名活動が起こっています。保護者の中に山都・高郷地区育みの丘構想に対する不安と混乱が広がっています。この混乱の責任は、教育委員会にあります。</p> <p>保護者が不安と混乱を抱いている中、今後どのように進めようとしているのか、伺います。</p> <p>(2) 山都中学校と高郷中学校の統合問題と旧県立耶麻農業高校跡地利用の問題は切り離して考えるべきです。</p> <p>旧県立耶麻農業高校跡地利用の問題は、市内に所在する閉校となった高等学校の土地、建物等の利活用を検討・協議するため、市民や市内団体の代表者、まちづくりの学識経験者、建築の専門家など13名で構成する旧福島県立高等学校利活用検討協議会できちんと議論すべきです。</p> <p>市長の考えを伺います。</p> <p>3 学校給食費の無償化について</p> <p>(1) 学校給食費の無償化を巡っては、無償化を求める声の高まりに対し、高市早苗首相は、10月の所信表明で「来年4月から実施する」と表明しました。自民、維新、公明の3党が、公立の小学校を対象に保護者の所得にかかわらず一律で支援する制度設計を検討しています。ようやく小学校の給食費の無償化が実現することになります。</p> <p>本市では、小・中学校の給食費については、市独自に半額補助を実施していますが、この機会に、中学校の給食費についても、全額補助し無償化すべきです。市長の決断を求めます。</p> <p>(2) 義務教育は無償と定める憲法に基づき、一刻も早く中学校でも給食費の無償化が実現するよう、国や県に強力に働きかけることを求めます。市長の考えを伺います。</p>
11	6	十二村秀孝	<p>1 本市農業・農村の在り方について</p> <p>近年、気候変動の影響により、農業現場では高温などの異常気象が頻発し、農作物の品質低下や収量減少、病害虫の増加といった被害が深刻化しています。</p>

令和 7 年第 8 回 12 月定例会

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			<p>一方、本市の基幹的農業従事者の平均年齢がほぼ 70 歳に達するなど、農業従事者の減少・高齢化は進行し、食料の供給はもとより農業・農村が有する公益的機能の低下が危惧される中、米価の上昇は生産コストの高騰に苦しんでいた農業者にとって一筋の光となっております。国においてもコメ生産量に不足があったことを受け止め、需要に応じた増産の方針を転換したものの、首相交代で方針が一転しようとしています。そこで次の 8 点について伺います。</p> <p>(1) 今年度における地域計画ごとの離農者数や離農予定者数について伺います。</p> <p>(2) 担い手育成の現状と今後の進め方について伺います。</p> <p>(3) 本市水稻における高温耐性品種の普及拡大の現状と普及拡大に向けた今後の進め方について伺います。</p> <p>(4) 本市園芸作物におけるハウスの自動換気や遮光資材、かん水設備の導入の現状と普及拡大に向けた今後の進め方について伺います。</p> <p>(5) 本市における令和 8 年産米の生産に対する基本姿勢について伺います。</p> <p>(6) 県では今年 9 月補正において原料高騰の影響を受ける清酒製造業者への支援を講じておりますが、本市産かけ米と酒造好適米の生産面積、市内での使用割合の動向、さらには市内経済循環の拡大に向けた今後の進め方について伺います。</p> <p>(7) 中山間地域等直接支払交付金制度について、今年度から第 6 期対策が始まりましたが、取組の現状と取組拡大に向けた今後の進め方について伺います。</p> <p>(8) 農業水利施設における電気料金高騰対策の現状と影響緩和に向けた今後の進め方について伺います。</p>
			<p>2 ふるさと納税について</p> <p>これまでも「ふるさと納税」については財源の確保につながる重要なものであるという観点から、何度か質問してきました。特に、今年は米価高騰などもあり、決まった頻度で届く米の定期便が人気を集めています。そこで次の 3 点について伺います。</p> <p>(1) 返礼品の品目別内訳割合の令和 6 年度、令和 7 年度の動向について伺います。</p> <p>(2) 令和 6 年 12 月定例会において、喜多方産米特集の掲載や新米の早期予約に取り組むと答弁がありましたが、取組の現状と効果について伺います。</p> <p>(3) ふるさと納税額の目標達成と更なる高みに向けた取組について伺います。</p>

令和7年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
12	11	菊地とも子	<p>1 今後実施を予定している主な事業について</p> <p>(1) 合併20周年記念事業について</p> <p>(2) 第11回全国醤油サミットについて</p> <p>(3) 全国市町村交流レガッタ喜多方大会について</p> <p>2 子育て支援について</p> <p>(1) 1か月児及び5歳児健診について</p> <p>(2) こども誰でも通園制度について</p>
13	4	高畠孝一	<p>1 総合支所機能の充実について</p> <p>(1) 少子高齢化が進む中、総合支所を中心としたまちづくりは極めて大切です。そのためには総合支所が主体的に行政運営を行うことが必要です。そこで、総合支所が活発に機能発揮できるための手立て（予算と要員、人事政策等）はどのようにになっているのか、伺います。</p> <p>(2) 総合支所が主体的に活動するということは、議会においても同じであろうと考えます。そこで当初予算が示される3月議会において、総合支所長から総合支所としての中心的政策を提案し説明されることを求めます。市の見解をお伺いいたします。</p> <p>2 交通安全対策としての道路標示作業の早期実施について</p> <p>現在、多くの道路で道路標示が見えなくなっています。ようやく今の時期になって一部で標示ペイントがされていますが、もうすぐ冬になり、せっかく標示をしても雪の下になってしまいます。何故、春先からこの作業ができないのか、その理由と改善策をお伺いします。</p> <p>3 道路等の改修について</p> <p>(1) 舞台田第2踏切北側の変則十字路の改修を行い、朝夕の渋滞緩和、事故防止を図っていただきたい。また、現在不鮮明な止まれや一時停止、中央線の道路標示を早急に実施するよう要請します。市の見解を伺います。</p> <p>(2) また、その地点から舞台田橋までの道路には歩道がないため歩行者や自転車が危険な状態にあります。よって、自転車も通行可能な歩道を整備されたい。</p> <p>なお、舞台田橋は太鼓橋の形状となっているので、並行する歩道は平坦な設計を要請いたします。市の見解を伺います。</p>
14	10	矢吹哲哉	<p>1 令和8年度当初予算編成について</p> <p>(1) 「基金繰入に依らない財政構造の実現」により繰入れを見込まいとしているが、想定する予算規模について伺う。</p>

令和 7 年第 8 回 12 月定例会

通告順	議席番号	質問者	質問事項及び質問要旨
			<p>(2) 「財政健全化プランも踏まえた経費の削減を設定」し『各所属における一般財源要求限度額』を提示する」としているが、令和 7 年度当初と比べた増減額と増減比率を伺う。</p> <p>(3) 「財政健全化プラン」の取組の進め方・目標額では、「事業全般の見直し・各種補助金等の見直し」の視点において、令和 8 年度に向け、必要に応じ、関係者への事前説明等を行なながら取組(削減)を進めるとある。8 年度の当初予算編成作業と並行して進めることとなるのか、伺う。</p> <p>2 大型建設事業構想、計画について</p> <p>(1) スケジュール、事業規模を伺う。</p> <p>ア ひとづくり・交流拠点複合施設 2 期工事について</p> <p>イ 旧喜多方東高校跡地利活用について</p> <p>ウ 喜多方地方広域市町村圏組合環境センター山都工場更新計画について</p> <p>エ 旧耶麻農業高校跡地の「育みの丘」構想について</p> <p>3 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 高市総理の「台湾有事の場合、最悪の場合は、日本の存立危機事態となりうるケース」との発言についての市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 高市総理の所信表明での、防衛費を今年度中に対 G D P (国内総生産) 比 2 パーセントへ引き上げるなどと、防衛費を大幅に増額しようとする姿勢についての市長の見解について伺う。</p>
15	17	小林 時夫	<p>1 地域医療の充実について</p> <p>(1) 本市医療機関の現状について</p> <p>(2) 地域医療の充実について</p> <p>ア 地域医療支援事業の実績と効果について</p> <p>イ 地域医療の今後について</p> <p>2 通学路の安全対策及び交通安全対策について</p> <p>(1) 通学路の安全対策について</p> <p>ア ゾーン 30 の設置状況と今後について</p> <p>イ 通学路のブロック塀補助事業について</p> <p>(2) 交通安全対策について</p> <p>ア 公用車のドライブレコーダー設置について</p> <p>イ 運転免許証自主返納支援事業について</p>

令和 7 年第 8 回 12 月定例会

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
16	18	渡 部 勇 一	<p>1 旧県立耶麻農業高校跡地利活用について</p> <p>(1) 旧耶麻農業高校跡地利用計画策定担当部署はどこか。またその理由は何か。</p> <p>(2) 全員協議会において、山都・高郷中学校統合校舎として利用と説明があったが、その改修等の予算は。</p> <p>(3) 山都・高郷中学校の敷地及び校舎の利活用は、どのように考えているか。</p> <p>(4) 旧耶麻農業高校を山都・高郷中学校に利活用するためにかかる費用をどのように考えているか。</p> <p>(5) 旧耶麻農業高校跡地の利活用は山都町の人口減少・経済の活性化問題の解決に寄与するものにすべきと考えるがどうか。</p>